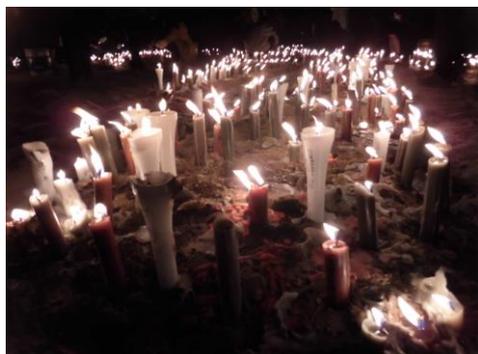


校訓	真善美	令和4年度 学校だより	発行日	令和6年1月17日
教育目標	自ら考え、行動し、 未来を創造できる生徒の育成 感謝する心、確かな学力、健やかな心身を育てる	「荒中だより」 1月 睦月(むつき) 第26号	発行者	伊丹市立荒牧中学校 校長 山崎 佳恵

【 防災訓練 1.17に考える 】



ろうそくに託したみなさんの思いを生徒会本部のみなさんが、昨日昆陽池公園の「追悼のつどい」に運び、1本1本火を灯し、1月16日午後5時46分 黙祷をささげました。

再生ろうそくづくりには、伊丹市立西中学校を拠点として、本校、科学部のみなさんも協力してくれました。ありがとうございました。献灯開式のあと、生徒会以外の荒中生徒にもたくさん出会いました。不自由な今の生活に『感謝』し、今自分がしなくてはならないことをしっかりと『悔いなくやる』こと。能登半島地震で被災した中学生は、どんな生活をしているだろう？同じ受験生として『自分なら』？と自分事で考え、行動できる人であってください。

1月15日で、松の内が明けました。今週末1月20日には「大寒」を迎え、一年で最も寒さが厳しい時期となります。コロナやインフルエンザが流行っていますので、手洗い、うがい、換気、規則正しい生活、ビタミンCの摂取など体調管理には十分に気をつけてください。

今日は、阪神淡路大震災から29年が経ち、その教訓をもとに防災訓練を行いました。13年前には、東日本大震災、新年を迎えたばかりの能登半島地震。震災により、犠牲になられた方々にお悔やみ申し上げますと共に、被災された全ての方々に心よりお見舞い申し上げます。また、見通しのつかない中で、不安な避難生活を余儀なくされておられる方々の安全と一日も早い復興を祈るばかりです。

あらため昨日から阪神間各地で、追悼集会が開催されています。震災を風化させず、次の世代へ伝えていくことが大切です。今から29年前の今日、兵庫県南部を激しい揺れが襲いました。この地震で、阪神間では震度7が観測され多くのビルや家が倒壊しました。地震で亡くなられた6,434名の方の約70%は、倒壊した建物等の下敷きになって窒息、圧死された方でした。地震は5時46分に発生したので、多くの方はまだ寝ていました。私自身も突然の激しい揺れに目覚め、背中から何度も突き上げられるような感覚でしたが、3年生の担任をしていたので、学校へ向かい、生徒の無事を確認するため一軒一軒、家庭訪問した事を鮮明に覚えています。

13年前の**東日本大震災**の時は、14時46分頃に揺れました。3月11日卒業式の後このニュースを見て、3年生の担任だった私は、恐ろしさのあまり全身が震えたのを覚えています。被害は、死者15,900人、行方不明者2,525人とあり、一瞬にして明日を奪われた多くの人、行方不明のまま家族の元に戻れない現実があることに、胸を痛めました。東日本では、授業中だった東北各地の学校は、揺れがおさまった後、児童生徒を下校させるのか、津波に備え集団避難するのか、その避難場所はどこにするのかなどの困難な選択を迫られる状況でした。岩手県釜石市かまいしでは、「津波てんでんこ」といって、津波の時は、家族さえかまわず一人でも高台に走って逃げて、自分の命を守ることが徹底されていました。その教えを守り、一人で家にいた低学年の児童も自分の判断で避難しました。

地震などの自然災害はいつ起こるかわかりません。大事なことは、『自助』自分の命を守ることと、地域で助け合う『共助』です。今、起こったらどのように行動するか常に考えておく備えが大切です。家族がバラバラになった時、どこに集まるかなど、家族で“備え”について話す時間をつくってみてください。

【6校時は、自分事として意見を出し合いシミュレーション】

各クラスで、避難経路の確認、地震が起きたときにどのような行動をとれば良いのかを確認できましたか？ 備えあつての実践です。『釜石の軌跡』『日本航空機18分間の奇跡の脱出』などがありますが、いずれもふだんの防災教育・訓練（避難訓練など）の行動が当たり前とし、**自ら考え、行動しなくてはなりません**。岩手県釜石市の児童生徒たち約570人がひとり残らず全員無事に避難できた理由は、

「避難3原則」を徹底して身につけていたとのこと。

① 想定にとらわれない②状況下において最善を尽くす③率先避難者になる

学活では、課題が出されていますので、個人の意見をしっかりもった上で、グループ単位で話し合い、出た意見をクラスの中で共有し、『自分事』として考える有意義な時間にしてください。「自分の命を大切にする」「家族や近所の人と協力する」というふたつの視点で考えるとシミュレーションしやすいと思います。